

令和7年度 第2回 学校運営協議会 記録

1 日時

令和7年 10 月 21 日(火) 午前9時 30 分から午前 11 時 30 分まで

2 場所

沼津視覚特別支援学校 会議室

3 出席者

(1)学校運営協議会委員

- ・ 第五地区西連合会自治会会長
- ・ 東部社会教育振興協議会事務局長
- ・ 特定非営利活動法人ティンクル副理事長
- ・ 沼津ライオンズクラブ会長
- ・ 三島市主任児童委員
- ・ 本校PTA会員

(2)学校職員

- ・ 校長、教頭、事務長、各部主事・主任、教務・情報図書課長、キャリア支援課長、支援センター長

4 会議の内容

(1)校長あいさつ、日程説明等

(2)校内参観

(3)校内参観の御感想・御意見

(4)協議(グループワーク)

テーマ:「沼津視覚のアピールポイント！今後の具体的展開に向けて！」

(5)全体共有

(6)その他

5 会議報告

<校内参観の御感想・御意見>

- ・ 個に応じた指導が素晴らしいとの感想があった。先生と子どもが1対1あるいは少人数の場面での指導がされており、信頼関係がよくできていた。教育機器や教材を使い、子どものやる気を促進している。
- ・ 実際に触って体験する活動の積み重ねができるのは、少人数の学校の強みである。
- ・ 会話が多く、話す順番を待つ大切さ、友達の考えを聞く大切さ、自分で考える大切さを感じた。子どもたちは落ち着いて授業を受けていた。

- ・先生方が工夫された課題提示により、子どもたちが集中して楽しそうに取り組んでいる様子が感じられた。
- ・高等部では、現在の生活に必要な知識を学んでいる姿を見て、後天性の中途障害において、社会生活を送る上で必要な知識を学ぶ機会がとても重要であると感じた。
- ・個人に合わせた学習ができるのが、この学校の最大のメリットである。

＜協議「沼津視覚のアピールポイント！今後の具体的展開に向けて！」＞

グループワークが行われ、アピールポイントをどのように発信していくかについて話し合われた。

【各グループからの提言概要】

A グループ

- ・地域交流イベントの活用。各地域（小中学校）の様々な場所で、科学体験会や障害体験ができると良い。交流の場を持つ。

B グループ

- ・アピールする内容の明確化。アピールすべきは学校の良さ、特に専門性と少人数制である。学校の良さ（専門性、少人数）を伝える際、その専門性や少人数が、「子どもの心の成長」や「保護者との連携強化」、「真の指導が深まる」という具体的な効果まで伝えることが重要。発信先に合わせた方法でアピールする。

C グループ

- ・具体的な発信方法の検討。学校だよりの配布範囲を広げる。QRコードをつけ、ホームページなどへアクセスを促す。ホームページや Facebook に加え、Instagram や動画配信などを活用し、より多くの人に気軽に学校を知ってもらう。高校ボランティア部と連携し、関係を築く。第 5 地区センター祭りや餅つき大会など、地域のイベントへの参加を促す。